



区内の様々な方に取材しました。

✿ 目の不自由な方

(目の不自由な方からのお話)

◆当日

一人で職場にいた。
地震の時、館内放送で「周りの様子を見て避難しましょう」と指示があったが、様子が見えないので、そのまま中にいた。誰からも声かけがなく取り残され、とても不安であった。

◆避難所への避難時

今回の震災でも、ガラス製の看板が道に落ちていた。周りの人が声をかけてくれたので避けられたが、周りの状況が分からないので不安だった。

◆避難所

トイレに近い、動きやすい場所が良いと思う。

✿ 知的障がいの方、発達障がいの方

(知的障がい者の保護者からのお話)

◆当日

子どもが一人で自宅にいた。
地震の時、怖くて外に出たところ、向かいの家の方が自転車で通りかかり、「どうしたの」と声をかけてくれ、保護者が帰るまでその方の家で一緒に過ごしてくれた。気にかけてくれたことがとても嬉しかった。

子どもは、地震が怖くて、3日くらい職場に通うことができなかった。

◆避難所

心が繊細なので、大勢の人と過ごすのは難しい。

✿ 手足が不自由な方

(車いすを利用している方の保護者からのお話)

◆当日

学校の下校時間で、送迎バスに乗っていたが、学校待機となった。車で迎えに行ったが、道が混んでおり、18時頃になってしまった。今回は、学校で待機できたので、本人も安心していただいていたようであった。

◆避難所への避難時

道の段差が気になる。

◆避難所

トイレに近くなくてもよいが、通路が確保できる場所が良いと思う。

- 1 「3/11東日本大震災の日、どのように過ごされましたか」
- 2 「避難所に逃げることになった場合、避難時や避難所で不安なことや、備えていることはありますか」

✿ 耳の不自由な方

(耳の不自由な方からのお話)

◆当日

1人でショッピングセンターにいた。
指示をしていた店長の身ぶり手ぶりや、周りの人の様子で、座って待機すると分かり柱につかまり座っていた。最寄り駅まで行ったところ、電車が止まっていることが分かり歩いて帰宅した。
メールが繋がらず、家族と連絡もとれなかった。
ラジオを聞くことができないため、テレビで情報収集したかったが、停電のため見ることができず、夜10時頃電気が復旧して、はじめて大きな災害であることが分かった。

◆避難所への避難のため備えていること

地元で手話ができる人とつながりを持ちたかったので、地元の手話サークルに行った。そこで近所に手話ができる人がいることが分かり、避難所で会う約束をした。
また、『耳や言葉が不自由です。助けて下さい』というメモを携帯している。

✿ 精神障がいの方

(精神障がい者施設職員からのお話)

◆当日

当日、施設にいる方は落ち着いて行動していた。

◆避難所への避難時や避難場所での対応

精神障がいという枠で見えてしまうと、何か特別な支援をしなければいけないと思いがちであるが、特別なことは必要ない。
本人が落ち着いて行動できるように、今何をやるべきなのか声かけてほしい。

その他、このような方たちも支援が必要な方たちです。

✿ 内部機能に障がいのある方

✿ 認知症の方

✿ 支援の必要な高齢者

✿ 乳幼児・妊産婦



今回の記事は、取材させていただいた方の個人の感想です。

赤十字救急法講習会

突然のけがや病気に対して、適切な緊急処置のできる人を養成するために、救急法講習会を開催します

- ◆ 日 時 平成23年11月12日(土)・13日(日)
19日(土)・20日(日)
※いずれも午前9時15分～午後5時
- ◆ 会 場 ハーモニーみどり2階
- ◆ 対 象 15歳以上で全日程参加できる人。
原則緑区在住・在勤・在学者
- ◆ 参加料 1,000円
- ◆ 定 員 28名(応募者多数の場合は抽選)
- ◆ 申込期間 9月28日(水)～10月26日(水)
- ◆ 申込方法 ハガキ・FAX・事務局窓口でお申込みください。(氏名・住所・電話・FAX・年齢・性別)

平成22・23年度の賛助会員をご紹介します



(23年3月1日から8月31日までにご入会いただいた賛助会員です)

【団体】 2団体

NPO法人 四季の森里山研究会
株式会社 新倉商店

【個人】 3名

星野 奈夏、橋本 菊二、高橋 昌三郎
(敬称略)